

令和4年度 こどもの生活状況調査の結果について（概要）

1. 調査目的

県内におけるこども及び保護者の生活状況調査により、全国調査の結果と比較しながら、本県のこども及び保護者の生活状況の傾向を把握し、今後のこども・子育て施策に反映する。

2. 調査対象

無作為に抽出した県内の小学5年生の児童及び保護者、中学2年生の生徒及び保護者

区 分	対 象	対象世帯数	回答数	回答率
小学5年生	児童及び保護者	2,000	836	41.8%
中学2年生	生徒及び保護者	2,000	687	34.4%

3. 調査方法

無作為抽出により対象となった世帯に調査票（小学生票、中学生票、保護者票）を郵送
調査対象となった世帯において回答された調査票（任意）を郵送（一部ウェブ）で回収

4. 調査期間

令和4年9月28日～11月15日

5. クロス集計

全国調査（※）の結果分析に準じて、以下の方法により分類を行った。

（1）所得類型

- ① 家族構成に関する設問と世帯年間収入に関する設問に対する回答に基づき、家族人数による差を調整するため、当該世帯の収入を同居している家族人数の平方根で除した金額を算出（世帯年間収入÷ $\sqrt{\text{家族人数}}$ ）した。
- ② ①で算出した金額を高い順に並べ、その中央値を算出した。
- ③ ②で算出した中央値の2分の1の金額未満を算出し、「中央値以上」、「中低位の水準の世帯」（中央値の2分の1以上中央値未満）、「もっとも収入の水準が低い世帯」（中央値の2分の1未満）に分類した。
- ④ ③のうち、「中低位の水準の世帯」と「もっとも収入の水準が低い世帯」を合わせて、「収入の水準が低い世帯」とした。

区 分	等価世帯収入の中央値	中央値の2分の1
県小学生	325.0万円	162.5万円
県中学生	325.0万円	162.5万円
国中学生	317.5万円	158.8万円

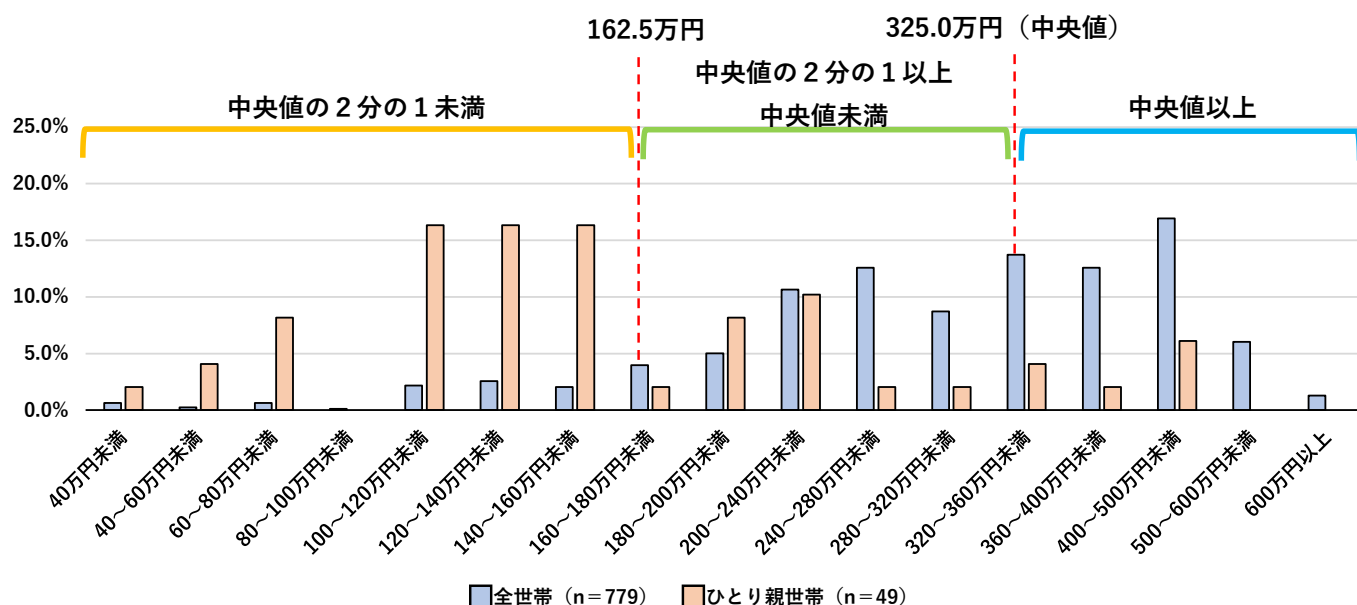
（2）世帯類型

親の婚姻状況に関する設問において、「離婚」、「死別」、「未婚」と回答した世帯を「ひとり親世帯」、ひとり親世帯以外の世帯を「ふたり親世帯」、それらを合わせて「全体」と分類した。

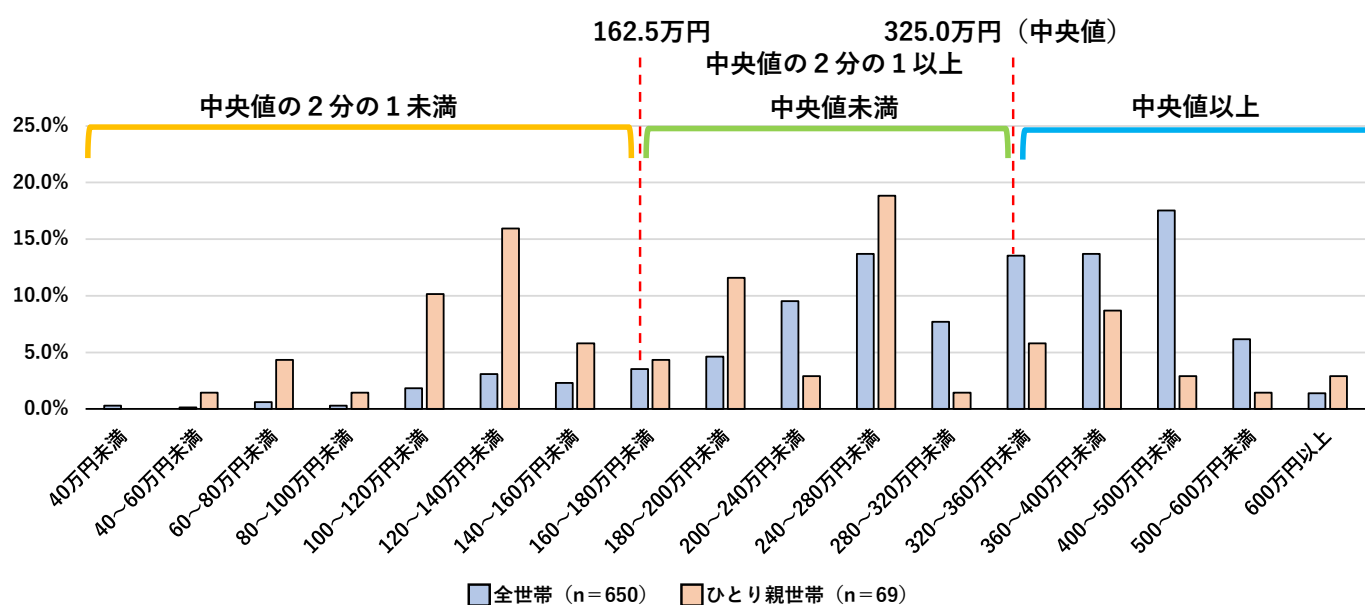
※ 全国調査とは、令和2年度に内閣府が実施した「令和3年 子供の生活状況調査の分析」（中学2年生とその保護者を対象）（次ページ以降も同様）

図表 1. 所得類型による割合

小学5年生



中学2年生



6. 調査結果（概要）

（1）保護者の生活状況

①世帯収入の状況

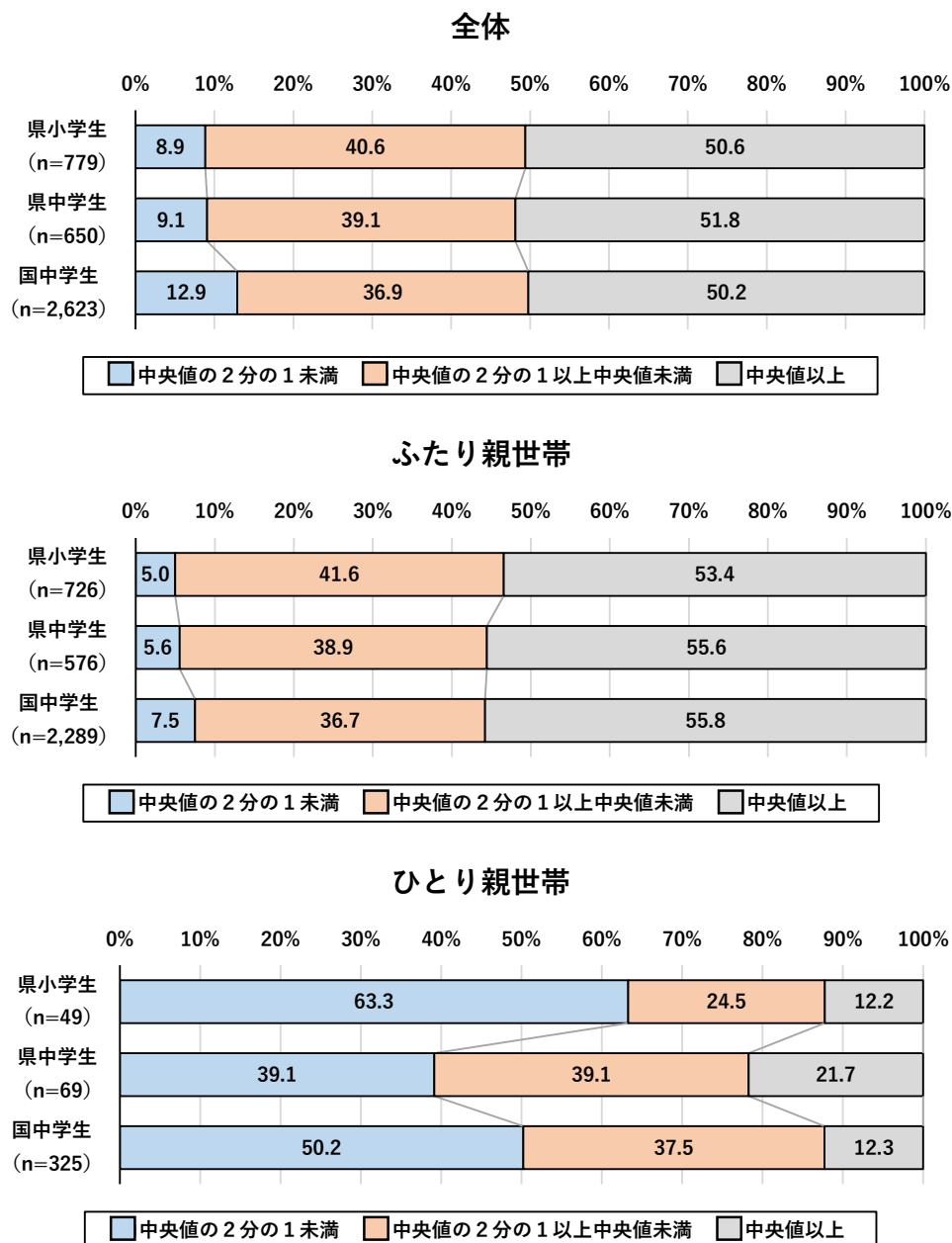
もっとも収入の水準が低い世帯の割合は、全体の1割程度であり、中学生では全国調査よりやや低い。

「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」の割合は、小学5年生が8.9%、中学2年生が9.1%となっている。

また、中学2年生（9.1%）では、全国調査（12.9%）と比較してやや低くなっている。

ひとり親世帯では、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」の割合は、小学5年生が63.3%、中学2年生が39.1%であり、中学2年生（39.1%）では、全国調査（50.2%）と比較して低くなっている。

図表2. 世帯収入の状況



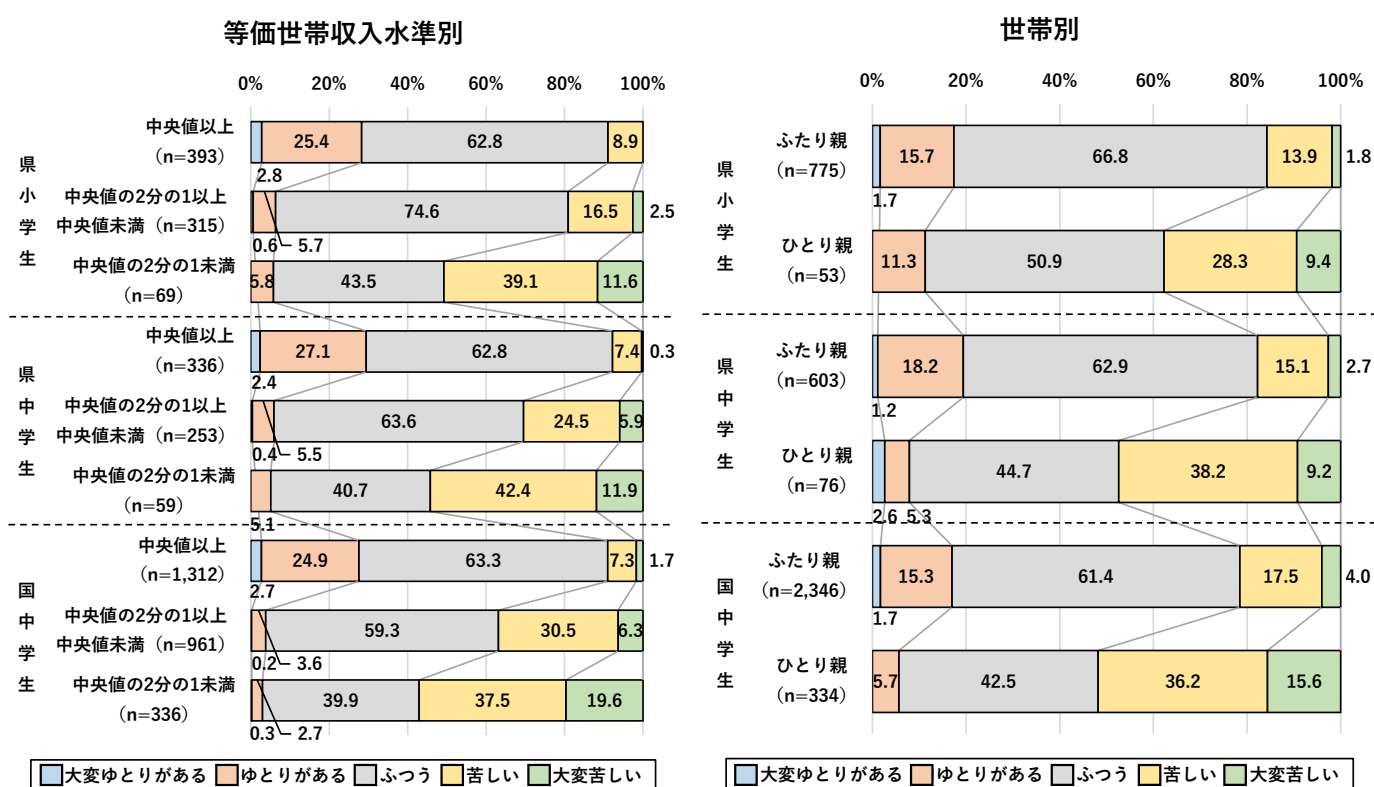
②現在の暮らしの状況

現在の暮らしが「苦しい、大変苦しい」の割合は、もっとも収入の水準が低い世帯は、全体の3倍程度、ひとり親世帯では全体の2倍程度に及んだ。

「苦しい」又は「大変苦しい」と回答した割合は、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」の小学5年生（50.7%）では、全体（17.2%）の3倍程度、中学2年生（54.3%）では、全体（20.9%）の2.5倍程度に及んだ。また、中学2年生（54.3%）では、全国調査（57.1%）と比較してやや低くなっている。

ひとり親世帯の小学5年生（37.7%）、中学2年生（47.4%）ともに、全体（小学5年生17.2%、中学2年生20.9%）の2倍程度に及んでおり、また、中学2年生（47.4%）では、全国調査（51.8%）と比較してやや低くなっている。

図表3. 現在の暮らしの状況



③食料が買えなかった経験

もっとも収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「食料が買えなかった経験」が生じている割合が高いが、中学生では全国調査より低い。

「あった」とする割合は、全体では小学5年生7.8%、中学2年生7.6%であったのに対し、「中低位の水準の世帯（中央値の2分の1以上中央値未満の世帯）」では小学5年生9.1%、中学2年生11.1%、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では小学5年生20.2%、中学2年生27.2%であった。

また、中学2年生（7.6%、11.1%、27.2%）では、全国調査（11.3%、15.0%、37.7%）と比較して低くなっている。

ひとり親世帯では、小学5年生22.6%、中学2年生20.0%であり、また、中学2年生（20.0%）では、全国調査（30.3%）と比較して低くなっている。

④こどもの進学段階に関する希望・展望

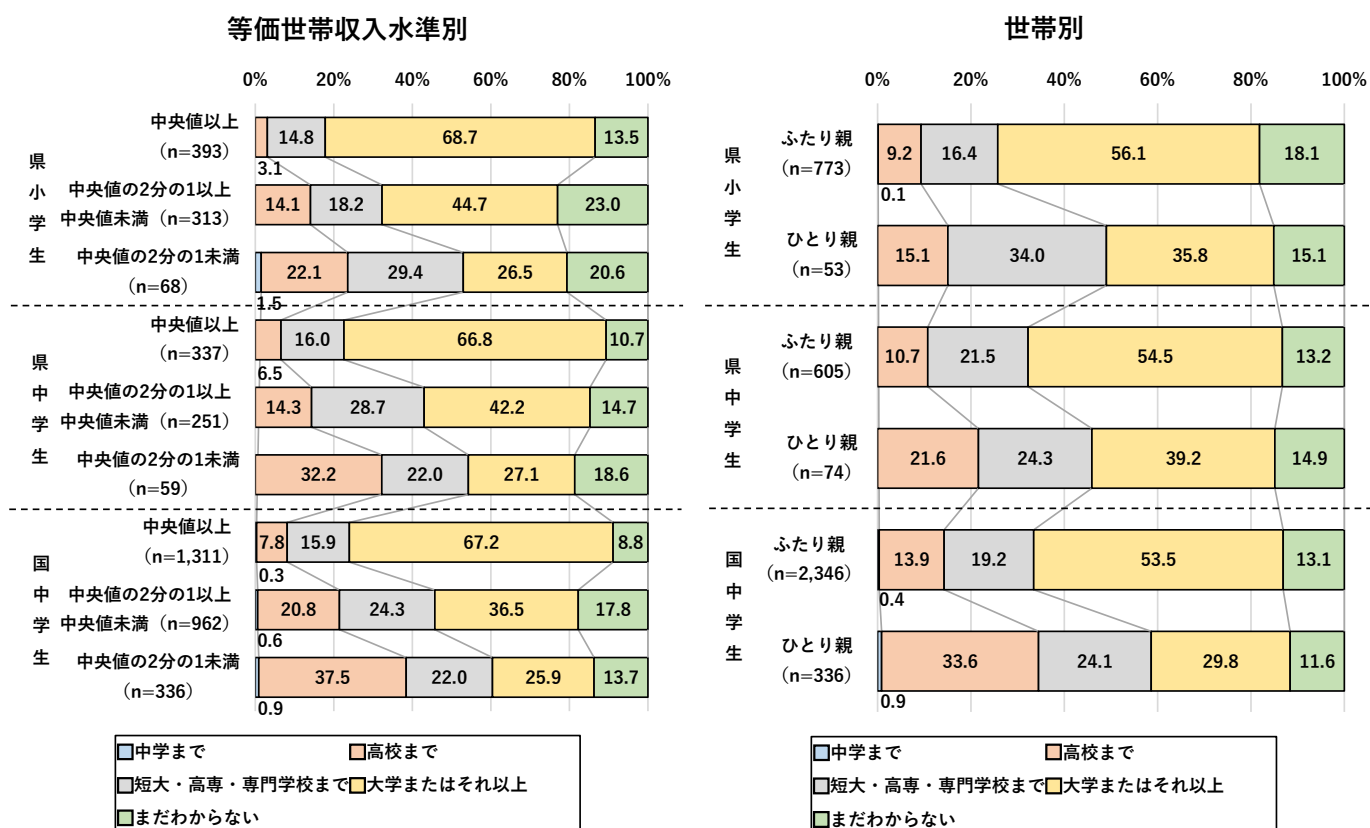
収入の水準が低い世帯では、こどもが将来どの段階まで進学するか希望・展望に関して「大学またはそれ以上」と回答した割合が低く、中学生では全国調査よりやや高い。

「大学またはそれ以上」と回答した割合は、全体では小学5年生54.5%、中学2年生52.5%であったのに対し、「中低位の水準の世帯（中央値の2分の1以上中央値未満の世帯）」では小学5年生44.7%、中学2年生42.2%、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では小学5年生26.5%、中学2年生27.1%であった。

また、中学2年生（52.5%、42.2%、27.1%）では、全国調査の結果（50.1%、36.5%、25.9%）と比較してやや高くなっている。

ひとり親世帯では、小学5年生35.8%、中学2年生39.2%であり、また、中学2年生（39.2%）では、全国調査の結果（29.8%）と比較して高くなっている。

図表 4. こどもの進学段階に関する希望・展望



⑤支援制度の利用状況

「就学援助」の利用割合は、もっとも収入の水準が低い世帯では3～4割程度、ひとり親世帯では3～5割程度であり、中学生では全国調査より低い。

「現在利用している」と回答した割合は、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では、「就学援助」は小学5年生46.4%、中学2年生31.6%、「児童扶養手当」は小学5年生35.3%、中学2年生42.1%となっている。

また、中学2年生（就学援助31.6%、児童扶養手当42.1%）では、全国調査（就学援助58.6%、児童扶養手当46.2%）と比較して、「就学援助」は低く、「児童扶養手当」はやや低くなっている。

ひとり親世帯では、「就学援助」は小学5年生55.1%、中学2年生32.9%、「児童扶養手当」は小学5年生56.6%、中学2年生48.0%であり、また、中学2年生（就学援助32.9%、児童扶養手当48.0%）では、全国調査（就学援助61.0%、児童扶養手当65.7%）と比較して低くなっている。

⑥支援制度を利用していない理由

もっとも収入の水準が低い世帯では、「就学援助」、「生活困窮者の自立支援相談窓口」、「母子家庭等就業・自立支援センター」に関しては、「利用したいが、今まで支援制度を知らなかったから」と「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」を合わせた回答が1割程度であった。

「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」と「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」を合わせた回答は、「就学援助」は小学5年生6.3%、中学2年生11.7%、「生活困窮者の自立支援相談窓口」は小学5年生5.4%、中学2年生12.3%、「母子家庭等就業・自立支援センター」は小学5年生9.1%、中学2年生12.6%であった。

また、中学2年生（11.7%、12.3%、12.6%）では、全国調査（10.3%、9.6%、13.6%）と比較して、「就学援助」、「生活困窮者の自立支援相談窓口」はやや高くなっているが、「母子家庭等就業・自立支援センター」はやや低くなっている。

ひとり親世帯では、「就学援助」は小学5年生5.0%、中学2年生2.4%、「生活困窮者の自立支援相談窓口」は小学5年生2.6%、中学2年生6.0%、「母子家庭等就業・自立支援センター」は小学5年生13.2%、中学2年生10.0%となっている。また、中学2年生（2.4%、6.0%、10.0%）では、全国調査（10.0%、10.2%、17.0%）と比較して低くなっている。

⑦新型コロナウイルス感染症の影響

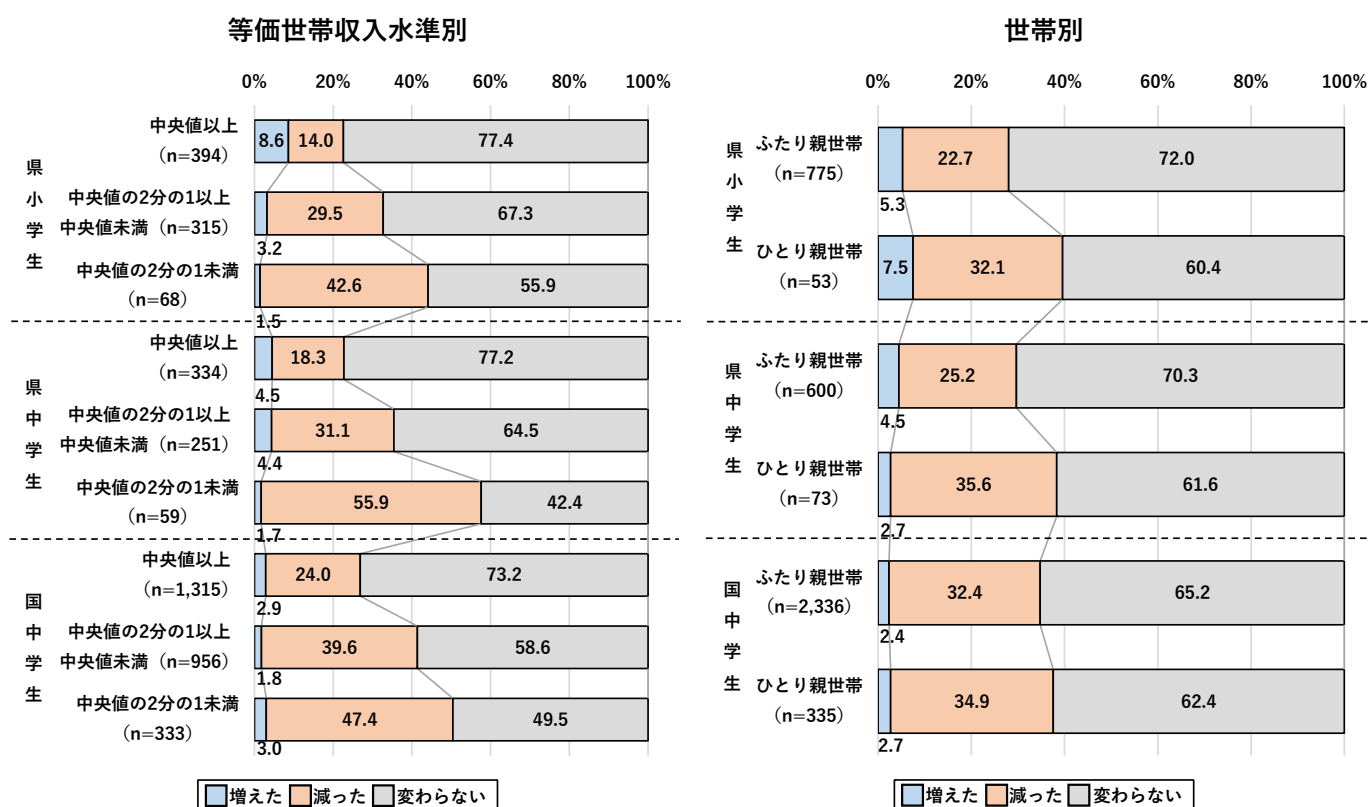
新型コロナウイルス感染症の拡大による「世帯全体の収入の変化」について「減った」と回答した割合は、収入が低い世帯やひとり親世帯で高い。

「世帯全体の収入の変化」について「減った」と回答した割合は、全体では小学5年生23.3%、中学2年生25.8%であったのに対し、「中低位の水準の世帯（中央値の2分の1以上中央値未満の世帯）」では小学5年生29.5%、中学2年生31.1%、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では小学5年生42.6%、中学2年生55.9%であった。

また、中学2年生（25.8%、31.1%、55.9%）では、全国調査（32.5%、39.6%、47.4%）と比較して、「中低位の水準の世帯（中央値の2分の1以上中央値未満の世帯）」では低くなっているが、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では高くなっている。

ひとり親世帯では、小学5年生32.1%、中学2年生35.6%であり、また、中学2年生（35.6%）では、全国調査（34.9%）と比較してやや高くなっている。

図表5. 新型コロナウイルス感染症の影響による世帯全体の収入の変化



(2) こどもの生活状況

①ふだん（学校がある日の1日）の勉強時間

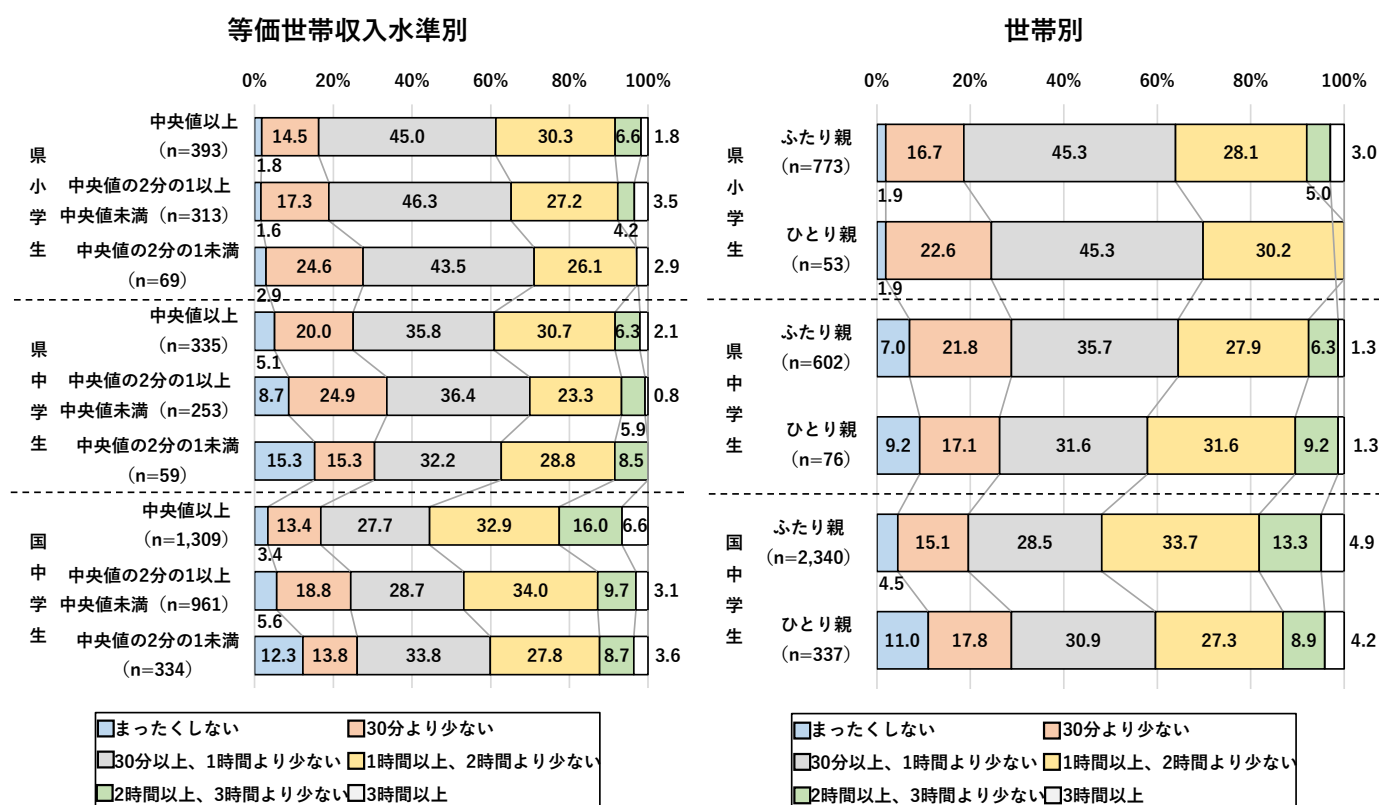
学校がある日に授業以外の勉強を「まったくしない」と回答した割合は、中学生ではもっとも収入の水準が低い世帯で高く、全国調査よりやや高い。

学校がある日に勉強を「まったくしない」と回答した割合は、全体では小学5年生1.9%、中学2年生7.1%であったのに対し、「中低位の水準の世帯（中央値の2分の1以上中央値未満の世帯）」では小学5年生1.6%、中学2年生8.7%、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では小学5年生2.9%、中学2年生15.3%であった。

また、中学2年生（7.1%、8.7%、15.3%）では、全国調査（5.3%、5.6%、12.3%）と比較して同じ傾向になっている。

ひとり親世帯では、小学5年生1.9%、中学2年生9.2%であり、中学2年生（9.2%）では、全国調査（11.0%）と比較してやや低くなっている。

図表 6. ふだん（学校がある日の1日）の勉強時間



②ふだんの勉強の仕方（複数回答）

「学校の授業以外で勉強はしない」と回答した割合は、もっとも収入の水準が低い世帯で高く、中学生では全国調査とほぼ同じ割合であった。

「学校の授業以外で勉強はしない」と回答した割合は、全体では小学5年生3.2%、中学2年生4.7%であったのに対し、「中低位の水準の世帯（中央値の2分の1以上中央値未満の世帯）」では小学5年生2.9%、中学2年生6.3%、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では小学5年生7.2%、中学2年生11.9%であった。

また、中学2年生（4.7%、6.3%、11.9%）では、全国調査（4.9%、5.8%、12.3%）と比較してほぼ同じ割合となっている。

ひとり親世帯では、小学5年生3.7%、中学2年生3.9%であり、また、中学2年生（3.9%）では、全国調査（10.7%）と比較して低くなっている。

③クラスの中での成績

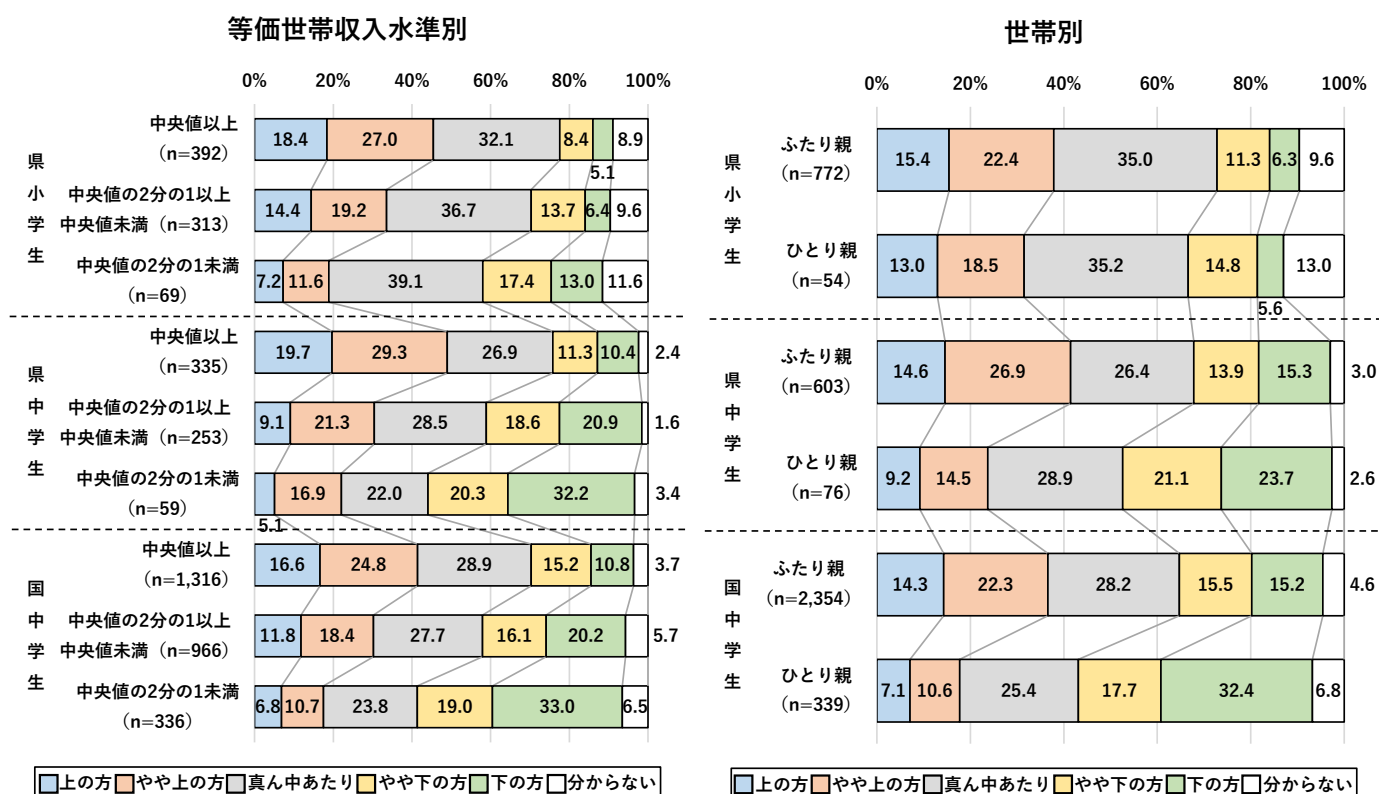
クラスの中での成績について「やや下のほう」「下の方」を合わせた割合は、もっとも収入の水準が低い世帯で高く、中学生では全国調査とほぼ同じ割合であった。

「やや下のほう」と「下のほう」を合わせた割合は、全体では小学5年生18.0%、中学2年生31.1%であったのに対し、「中低位の水準の世帯（中央値の2分の1以上中央値未満の世帯）」では小学5年生20.1%、中学生2年生39.5%、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では小学5年生30.4%、中学2年生52.5%であった。

また、中学2年生（31.1%、39.5%、52.5%）では、全国調査（33.0%、36.3%、52.0%）と比較して、「もっとも収入の水準が低い世帯」では、ほぼ同じ割合となっている。

ひとり親世帯では、小学5年生20.4%、中学2年生44.8%であり、また、中学2年生（44.8%）では、全国調査（50.1%）と比較して低くなっている。

図表7. クラスの中での成績



④朝食の状況

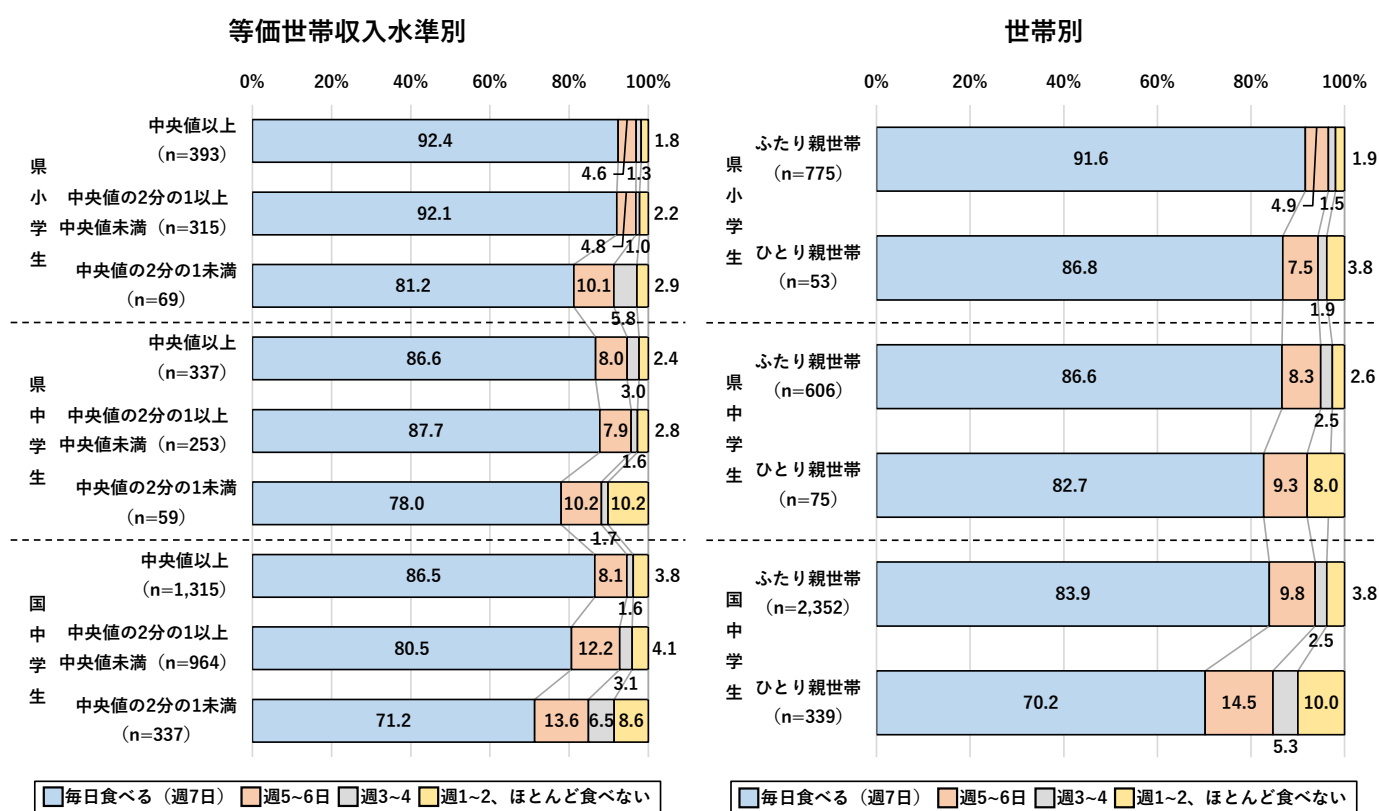
もっとも収入の水準が低い世帯では、「朝食」について「毎日食べる」と回答した割合が低い、中学生では全国調査より高い。

「朝食」について「毎日食べる（週7日）」と回答した割合は、全体では小学5年生90.9%、中学2年生86.2%であったのに対し、「中低位の水準の世帯（中央値の2分の1以上中央値未満の世帯）」では小学5年生92.1%、中学2年生87.7%、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では小学5年生81.2%、中学2年生78.0%であった。

また、中学2年生（86.2%、87.7%、78.0%）では、全国調査（82.0%、80.5%、71.2%）と比較して高くなっている。

ひとり親世帯では、小学5年生86.8%、中学2年生82.7%であり、また、中学2年生（82.7%）では、全国調査（70.2%）と比較して高くなっている。

図表 8. 朝食の状況



⑤進学したいと思う教育段階

もっとも収入の水準が低い世帯では、進学したいと思う教育段階について「大学またはそれ以上」と回答した割合が低く、さらに中学生では全国調査より低い。

「大学またはそれ以上」と回答した割合は、全体では小学5年生34.2%、中学2年生47.8%であったのに対し、「中低位の水準の世帯（中央値の2分の1以上中央値未満の世帯）」では小学5年生25.3%、中学生43.2%、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では小学5年生27.7%、中学2年生19.3%であった。

また、中学2年生（47.8%、43.2%、19.3%）では、全国調査（49.7%、38.1%、28.0%）と比較して、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では低くなっている。

ひとり親世帯では、小学5年生37.3%、中学2年生45.9%であり、また、中学2年生（45.9%）では、全国調査（34.7%）と比較して高くなっている。

⑥部活動等への参加状況

もっとも収入の水準が低い世帯の中学生では、部活動等に参加していない割合が高いが、全国調査より低い。

「参加していない」と回答した割合は、全体では中学2年生6.0%であったのに対し、「中低位の水準の世帯（中央値の2分の1以上中央値未満の世帯）」では中学2年生5.6%、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では中学2年生13.6%であった。

また、中学2年生（6.0%、5.6%、13.6%）では、全国調査（14.6%、13.7%、23.8%）と比較して低くなっている。

ひとり親世帯では、中学2年生6.7%であり、また、全国調査（23.9%）と比較して低くなっている。

⑦新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の拡大による変化として「学校の授業がわからないと感じること」について「増えた」と回答した割合は、中学生では収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で高く、全国調査と同じ傾向となっている。

新型コロナウイルス感染症の拡大による変化として、「学校の授業が分らないと感じること」について「増えた」と回答した割合は、全体では小学5年生19.0%、中学2年生25.2%であったのに対し、「中低位の水準の世帯（中央値の2分の1以上中央値未満の世帯）」では小学5年生19.7%、中学2年生30.9%、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では小学5年生22.1%、中学2年生33.9%であった。

また、中学2年生（25.2%、30.9%、33.9%）では、全国調査の結果（26.4%、27.6%、36.1%）と比較して同じ傾向になっている。

ひとり親世帯では、小学5年生24.1%、中学2年生32.0%であり、また、中学2年生（32.0%）では、全国調査の結果（32.4%）と比較してほぼ同じ割合になっている。

⑧生活満足度

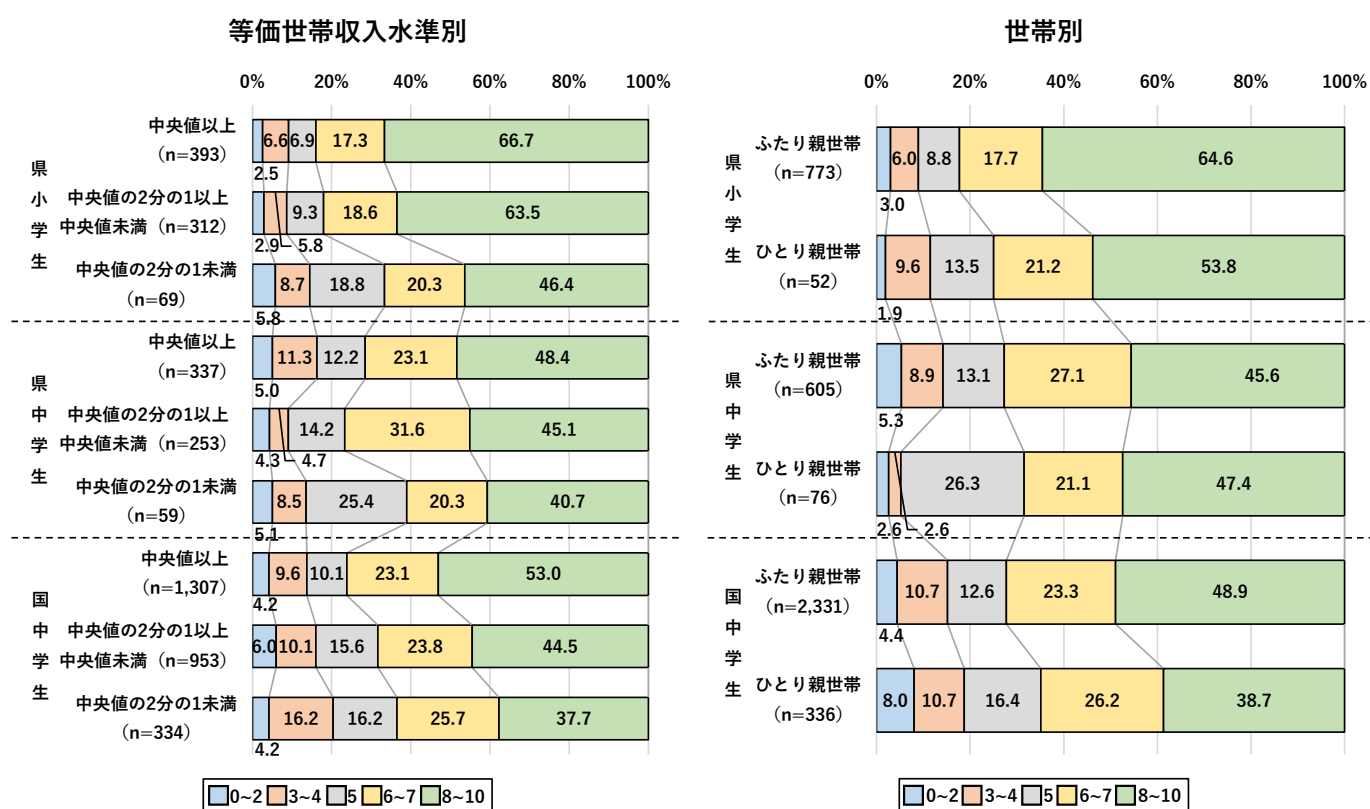
もっとも収入の水準が低い世帯では、生活満足度が低く、中学生では全国調査よりやや低い。

「6～10」（満足度が高い方の回答）に該当する割合は、全体では小学5年生81.0%、中学2年生72.2%であったのに対し、「中低位の水準の世帯（中央値の2分の1以上中央値未満の世帯）」では小学5年生82.1%、中学2年生76.7%、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では小学5年生66.7%、中学2年生61.0%であった。

また、中学2年生（72.2%、76.7%、61.0%）では、全国調査（70.6%、68.3%、63.4%）と比較して、「もっとも収入の水準が低い世帯」では、やや低くなっている。

ひとり親世帯では、小学5年生75.0%、中学2年生68.5%であり、また、中学2年生（68.5%）では、全国調査（64.9%）と比較してやや高くなっている。

図表 9. 生活満足度



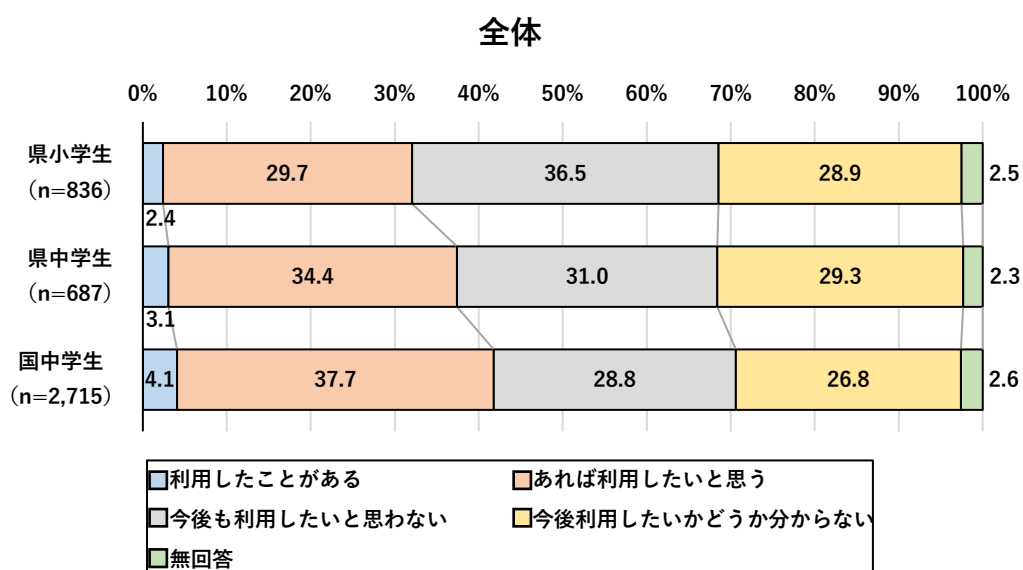
⑨勉強を無料でみてくれる居場所

「利用したことがある」と回答した割合は、全体の1割未満であった。ただし、「あれば利用したい」と回答した割合は3割程度であった。

「利用したことがある」と回答した割合は、全体では小学5年生2.4%、中学2年生3.1%であったのに対し、「中低位の水準の世帯（中央値の2分の1以上中央値未満の世帯）」では小学5年生2.9%、中学2年生2.4%、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では小学5年生0.0%、中学2年生1.7%であった。

一方、「あれば利用したい」と回答した割合は、全体では小学5年生29.7%、中学2年生34.4%であったのに対し、「中低位の水準の世帯（中央値の2分の1以上中央値未満の世帯）」では小学5年生31.7%、中学2年生35.5%、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では小学5年生32.8%、中学2年生39.7%であった。

図表10. 勉強を無料でみてくれる居場所の利用状況



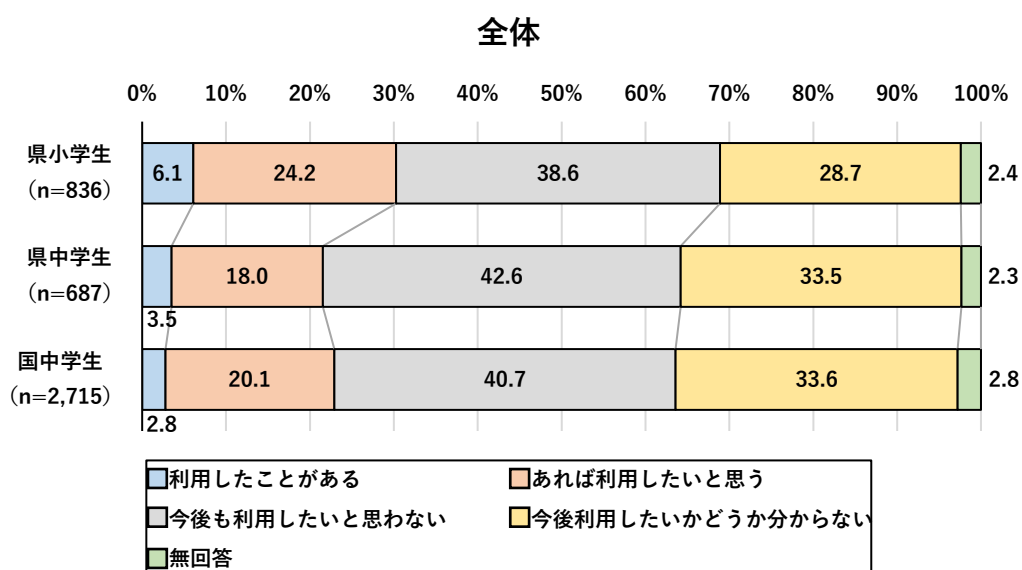
⑩夕ごはんを無料か安く食べることができる場所（こども食堂など）

「利用したことがある」と回答した割合は全体の1割未満であった。ただし、「あれば利用したい」と回答した割合は2割程度であった。

「利用したことがある」と回答した割合は、全体では小学5年生6.1%、中学2年生3.5%であったのに対し、「中低位の水準の世帯（中央値の2分の1以上中央値未満の世帯）」では小学5年生5.8%、中学2年生5.2%、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では小学5年生4.5%、中学2年生3.4%であった。

一方、「あれば利用したい」と回答した割合は、全体では小学5年生24.2%、中学2年生18.0%であったのに対し、「中低位の水準の世帯（中央値の2分の1以上中央値未満の世帯）」では小学5年生23.3%、中学2年生17.7%、「もっとも収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満）」では小学5年生23.9%、中学2年生19.0%であった。

図表11. 夕ごはんを無料か安く食べることができる場所（こども食堂など）の利用状況



⑪居場所等の利用による変化

居場所等の利用によって、全体では「生活の中で楽しみなことが増えた」、「ほっとできる時間が増えた」、「友達が増えた」などの変化が認識された。

「居場所等を利用したことがある」と回答した人のうち、利用による変化をどのように考えているかについて、「特に変化がない」以外の回答として多かったのは、全体では小学5年生は「①生活の中で楽しみなことが増えた」（36.9%）、「②ほっとできる時間が増えた」（24.8%）、「③友達が増えた」（24.2%）、中学2年生は「①生活の中で楽しみなことが増えた」（33.0%）、「②友達が増えた」（22.9%）、「③ほっとできる時間が増えた」（22.0%）の順となっている。

図表12. 居場所等の利用による変化（複数回答）

